

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	札幌市立厚別通小学校 第3学年 62名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・スポーツ選手の生き方やオリンピックの歴史にふれることで、夢をもち、粘り強くやり遂げようとする態度をもつ。 ・パソコンを使って、オリンピックの競技や参加選手について調べる。
5 取組内容	○指導計画【12時間扱い】 ・「総合的な学習の時間」1時間 ※オリンピックやパラリンピックを紹介する ・「総合的な学習の時間・道徳」4時間 行事 1移動 ※札幌オリンピックミュージアム見学 ・「総合的な学習の時間」「国語」各1時間 ※インターネットを使って、オリンピックの歴史や出場選手について調べる 見学の感想 ・「道徳」1時間 ※教科書 自分を見つめて『「わたしらしさ」をのばすために』 ・「道徳」1時間 ※読み物資料「きっとできる（高橋尚子選手）」 ・「総合的な学習の時間」1時間 ※学習のふり振り返り ○取組の様子 パラアイスホッケー日本代表のキーパー永瀬充さんから、「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ。」という病気で足が不自由になってしまったご自身が障害を乗り越え、夢をもって生きていくための支えになっている



	言葉を教えていただいた。 障がいがあっても、スポーツを楽しみ、夢に向かって努力している姿に、子どもは感銘を受けた。 施設の見学では、自分たちが体験したことがないウィンタースポーツがたくさんあることと、テレビなどで見たことがある競技の用具を間近に見て、関心を高めた。 また調べ学習では、オリンピックの競技、選手だけではなく、パラリンピックの競技についても調べた。	 
	【子どものノートから】 ・手や足が不自由でも、パラリンピックで活躍している人がたくさんいることが分かりました。永瀬さんから見せてもらった銀メダルがとても重かったです。 ・スキージャンプ台がとても大きくて、近くで見るとやっている人は、「怖くないのかな」と思いました。 ・パラリンピックのことはほとんど知らなかったけれど、夏や冬のパラリンピックにどのような競技があるのか分かりました。	
6 主な成果	北海道出身の選手らの活躍や競技の様子を身近に感じることができた。特に、パラアイスホッケーの選手として数回のパラリンピックに出場し銀メダルを獲得した経験のある永瀬充さんから、「夢をもつこと・あきらめないこと・そして、感謝すること」の大切さを、直接教えていただいた。また、オリンピックに出場した選手が使用していた本物の用具を間近に見ることができ、普段の学習では味わえない貴重な経験をする場となった。	
7 実践において工夫した点	実際に、パラリンピックに出られた方のお話を聞くことや、実物にふれる体験をきっかけに、冬のオリンピック・パラリンピックの競技や、夢をかなえることについて考える流れにした。	
8 主な課題等	体験の時間が少々短く感じた。見学の時間が足りず、体験していないものや、見ていないブースがあった。	
9 今後の取組について	学年のカリキュラムに位置付けられるよう検討していく。	